



CSRレポート 2013

NIPPO CSR Report 2013

企業理念

わたしたちは
確かなものづくりを通して
豊かな社会の実現に貢献します

行動指針

- ・信頼を築く
- ・技を磨き、伝える
- ・夢をいだき、挑戦する

企業行動5つの誓い

- 法令遵守 ・ その行為は法律に違反していないか
- 企業倫理 ・ その行為は企業理念や倫理に違反していないか
- 社会常識 ・ その行為は社会の常識か
- 社会の目 ・ その行為は社会の目、安心、安全にそむいていないか
- 自分の心 ・ その行為は間違いないか、自分の心に問いかける

(2013年3月31日現在)

社 名 : 株式会社 NIPPO

英 文 社 名 : NIPPO CORPORATION

設 立 : 1934年(昭和9年)2月

本社所在地 : 〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11
TEL 03-3563-6751(代表)

代 表 者 : 代表取締役社長 水島 和紀

資 本 金 : 15,324百万円

事 業 内 容 : 建設事業、アスファルト合材等の製造・販売事業、
開発事業およびその他の事業

従 業 員 数 : 1,849名(男性1,764名、女性85名)

ホームページ : <http://www.nippo-c.co.jp/>

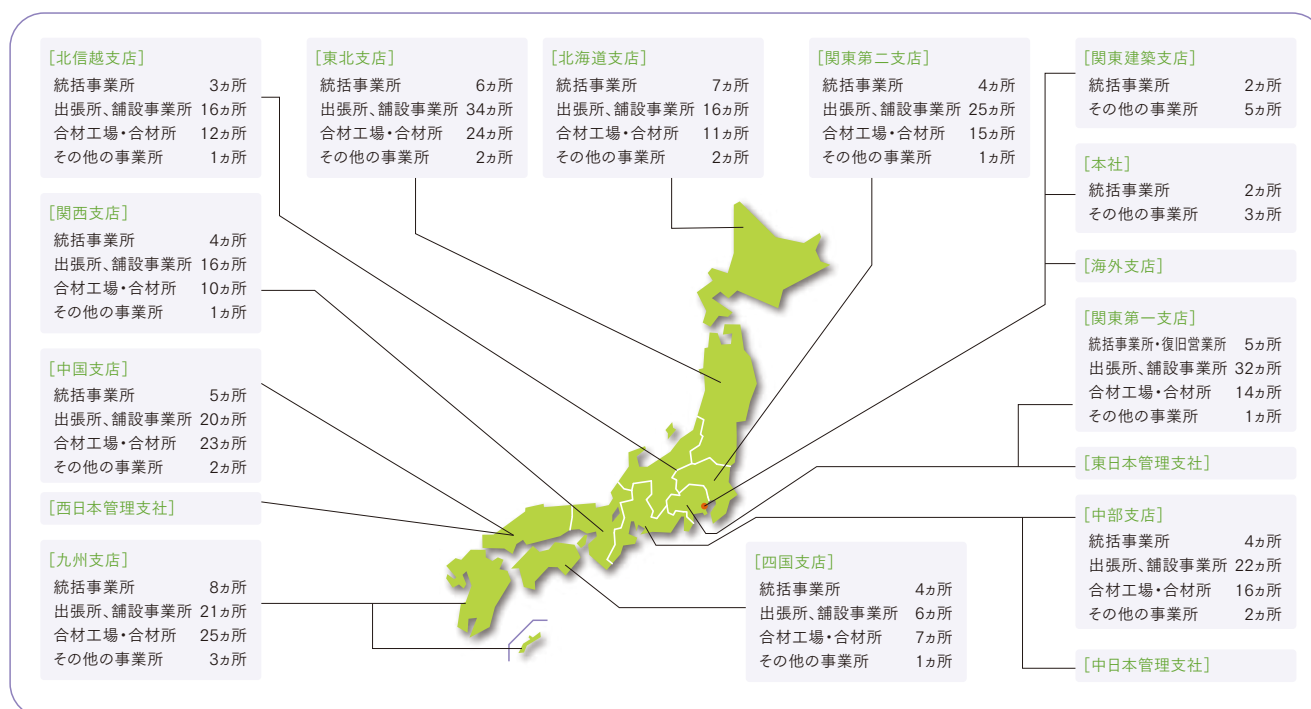
株式会社NIPPOはアスファルト舗装工事を中心とする舗装・土木工事およびアスファルト舗装の材料であるアスファルト合材の製造・販売を中核事業としています。

舗装・土木工事の対象は、一般道路、高速道路、レーシングコース、空港から、市民の憩いの場となる公園、テニスコート、サッカーグラウンド、さらには庭先舗装まで広範囲に及びます。また、製造したアスファルト合材は当社の工事で使用するだけでなく、ほかの舗装工事業者にも販売しています。

このほか、マンション等の建築工事、戸建てをはじめとする宅地や都市型マンションの開発事業、石油精製などのプラントエンジニアリング事業および土壌浄化事業等の戦略事業を取り込み、事業基盤を強化しています。

2012年4月1日をもってエネルギー事業本部の事業を会社分割し、日陽エンジニアリング株式会社との統合新会社である「JXエンジニアリング株式会社」へ同事業を承継しました。

●事業所一覧 (2013年4月1日現在)

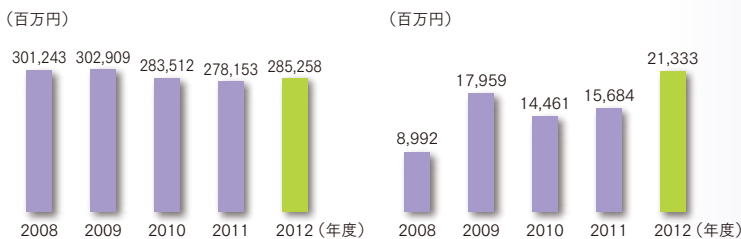


CONTENTS

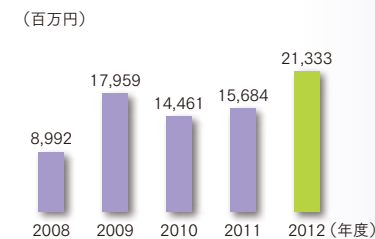
● CSR活動への取り組み

1934	日本石油(株)道路部と浅野物産(株)道路部の合同により「日本舗道株式会社」を設立
1993	企業行動倫理委員会設置
1994	環境保全活動推進のための諮問機関として環境管理委員会を設置 企業理念・行動指針制定
1995	シンボルマーク改訂
1998	環境に関する基本理念と行動指針を表した環境保全活動指針を制定
2003	日本舗道株式会社が、新日石エンジニアリング株式会社を吸収分割して 「株式会社NIPPOコーポレーション」に商号変更 法令遵守(コンプライアンス)体制構築
2004	環境報告書創刊
2005	CSR体制構築
2006	企業理念・行動指針改訂
2007	CSRレポート創刊
2009	「株式会社NIPPO」に商号変更

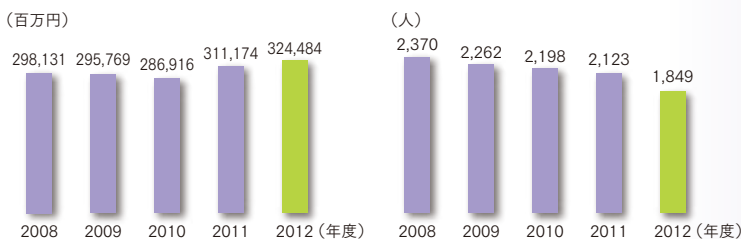
● 売上高



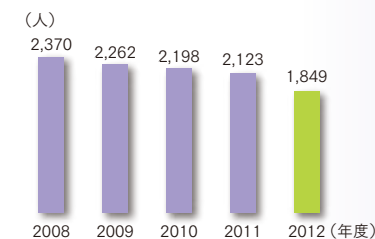
● 経常利益



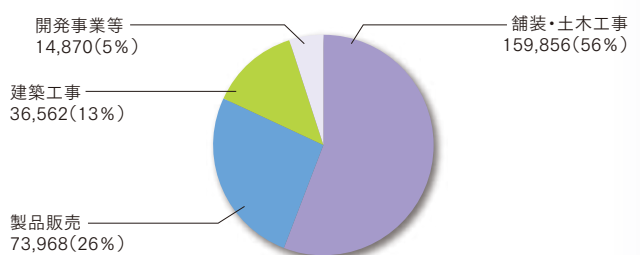
● 総資産額



● 従業員数



● 事業分野別売上高 (2012年度)



会社概要	1
------	---

トップメッセージ	3
----------	---

NIPPOの事業	5
----------	---

マネジメント報告

コーポレート・ガバナンス	7
--------------	---

CSRマネジメント	8
-----------	---

コンプライアンスと品質保証体制	9
-----------------	---

環境・安全報告

安全管理	10
------	----

環境マネジメントシステム	11
--------------	----

舗装事業における環境保全活動	13
----------------	----

舗装事業での環境技術	15
------------	----

戦略事業における環境・安全配慮	17
-----------------	----

社会性報告

お客様の信頼を得るために	19
--------------	----

従業員とのかかわり	20
-----------	----

社会とのコミュニケーション	21
---------------	----

読者の声を受けて	23
----------	----

第三者意見	26
-------	----

▶ 編集方針

CSRとは、Corporate Social Responsibilityの略で、「企業の社会における信頼性」と訳されます。このCSRレポートでは、株式会社NIPPOが社会から信頼されるために取り組んでいる活動を紹介し、一般の方にとってなじみの薄い建設業を事業活動の中心とする株式会社NIPPOと、経済・環境・社会とのかかわりについて、多くの方々に知っていただくことを編集の基本方針としています。

このレポートをツールとして当社とかわる多くの方々とコミュニケーションをさらに充実させていきたいと思っています。

▶ 対象範囲と対象期間

対象範囲：株式会社NIPPOの本社、管理支社3カ所、支店12カ所、統括事業所・復旧営業所54カ所、現業事業所389カ所(海外を除く)。

対象期間：2012年度

(2012年4月1日から2013年3月31日)

一部には、時期を明示した上で2012年度以前の情報と2013年9月までの最新情報を掲載しています。

確かなものづくりを通して 社会からの期待に応えCSRを推進します。

株式会社 NIPPO
代表取締役社長

水島 和紀

わたくしたちは、企業理念で「豊かな社会の実現」を謳っているとおりに、まちとまち、暮らしと産業をつなぐ「道づくり」、人と自然にやさしい「まちづくり」を通して、持続的な社会の発展に貢献することをNIPPOの使命と考えています。現在取り組んでいる2015年度までの中期経営計画においては、CSRの目標として、「安全」と「確かなものづくり」を徹底したCSRの推進を掲げ、従業員一人ひとりがCSRを正しく理解し、自立的に実行する土壌づくりを進めています。

安全確保はCSRの根幹

2012年度は、工事現場で3人の尊い命を失う死亡災害を生らせてしまいました。「人の命を守る」安全確保は、企業が第一に果たすべき根幹の責任です。経営幹部自らが現場に足を運び、現物を確認し、現実を目で見る「三現主義」を実践し、現場で安全作業が実施されていることを確認し、指導すると同時に、死亡事故を絶対起こさないために取り決めた「安全作業4つの誓い」を再確認し、全社を挙げて再発防止と安全施工の徹底に取り組んでまいります。

- ①重機・車両後退時「誘導合図の確認」
- ②土砂崩壊「土止めの確認」
- ③転落・墜落「安全帯の確認」
- ④非定常時作業「装置停止の確認」

「死亡災害ゼロ」から「ゼロ災」までの道のりは長いように見えますが、「死亡災害ゼロ」運動を徹底してやる、このことが「ゼロ災」への近道となると考えています。

安全・安心を将来世代へ

東日本大震災から2年半が過ぎました。被災した東北地方で

はようやく復興の事業が本格化しはじめています。この間、NIPPOは救援活動や緊急復旧、さらには高速道路から生活道路にいたる道路復旧など、被災地域の支援に取り組んでまいりました。いまだ不自由な生活を強いられている皆様が、一日も早く元の生活に戻ることができるように、これからも被災地域における復興事業に全力を挙げて取り組んでいくのはもちろんのこと、ボランティア活動などあらゆる機会を通して、復興のお役に、そして社会のお役に立っていきたくと思っています。

わが国は震災のほかにも、台風による水害、地滑りなど、自然災害の危険性が高い災害大国といえます。わが国の道づくり・まちづくりは、自然と人との協調とせめぎ合いの中で研鑽されてきました。NIPPOは、防災・減災のための新たな技術開発、高い現場力、そして従業員の矜持^{きやうじ}をもって、将来を担う人々の生命や暮らしを守り、地域の安全・安心を将来世代に受け渡す努力を積み重ねてまいります。

確かなものづくりの実践

「コンクリートから人へ」でスタートした前政権においては、全ての公共工事がムダであり、ばら撒きであるかの如く言われ、公共工事に携わる者にとっては、大変つらく、悲しい時代でありました。一転、新政権は「国土強靱化」、「防災・減災ニューディール」といった政策を掲げ、必要な公共工事を着実に実施することを提唱しています。しかし、国・地方の財政状況やわが国の経済状況全般を考えたとき、一時的には国内需要が膨らむことがあっても、中長期的には横這いもしくは縮小傾向との展望をもって会社経営にあたっていくことがより賢明と考えています。

縮小傾向にある国内建設市場にあっても、NIPPOが名実ともに業界トップとして将来にわたり生き残るためには、「確かなもの

のづくり」を通して、品質、法令、安全、環境など、あらゆる社会的
要求に適正に応え、お客様から選ばれ続けることが不可欠で
す。「ものづくり」の原点は現場にあります。従業員一人ひとりが
現場力に磨きをかけ、「確かなものづくり」を実践してまいります。

低炭素・循環型社会の実現に向けて

NIPPOは、1950年代から「アスファルト舗装のリサイクル技術」の研究開発に取り組み、ほぼ100%の再資源化率を誇る今日の技術の礎を築きました。その後も鉄鋼スラグやゴミ熔融スラグといった他産業副産物をアスファルト舗装材料に有効利用する技術など、資源循環型社会の構築に向けた技術開発を推進しています。

国際社会において地球環境への取り組みが重みを増す中、都市のヒートアイランド現象を抑制する「遮熱性舗装」が第24回世界道路会議でベストイノベーション賞に輝きました。このほかにもCO₂排出量削減に有効な「中温化技術」や「低炭素ポリシール」の適用拡大をはかるなど、低炭素社会の実現に向けて、幅広い視点から技術貢献を果たしていきます。

積極的な社会貢献と情報発信

全国に展開する事業所ネットワークを活用し、自然災害に対する復旧活動をはじめ、地域に密着した清掃活動や交通安全活動に取り組んでいます。2012年度は、学習まんが「道づくりのひみつ」の出版・寄贈、JXグループの「童話の花束」への協力、小学校のグラウンド整地、除雪機械の試乗会、「世界の子どもにワクチンを日本委員会」への寄付など、将来世代の育成支援にも注力してきました。

かつて建設産業は、黒部ダム・新幹線・高速道路・本四架橋などの大規模プロジェクトが若者に大きな魅力や感動を与えてきましたが、現在はネガティブなイメージが社会に浸透し、若者の建設産業離れも進行しています。ホームページや地域活動を通して、建設産業の社会に果たす役割や能力を積極的に情報発信し、社会とのコミュニケーションをより深め、建設産業に対するイメージの改善や正しい理解の促進にも努めてまいります。

2013年6月には、「NIPPO・CSR委員会」の実践機関である7つの委員会を、コンプライアンス・人間尊重・情報管理・社会貢献に関する「CSR第一委員会」、安全衛生に関する「CSR第二委員会」、環境・品質保証に関する「CSR第三委員会」に再編し、多様化・複雑化する検討課題にも迅速・的確に対処することのできる体制を整えました。これからもCSR活動を積極的に展開し、良き企業市民として、社会の期待や要請に誠実に応え、信頼の絆を深めてまいります。

皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



NIPPOの事業

事業活動を通じて、社会のさまざまな場面で当社の技術力を活かした「確かなものづくり」を実践し、豊かな社会の実現を目指しています。

土壌浄化事業

事業を通じて汚染を社会全体に拡散させないことを念頭に、「土壌浄化」工法の提案に日々努めています。また、搬出する汚染土壌の管理伝票購入費の一部は、土壌汚染対策助成金に使われています。

舗装・土木事業 スポーツ施設

舗装・土木事業 高速道路

建築事業

建築分野のエキスパート集団を軸に、民間・官庁工事の実績を積み重ねることで技術の蓄積を行い、着実にお客様の信頼を築きつつ、事業を発展させてきました。さらに、環境負荷低減に配慮した取り組みを充実させ、地域に合った夢のある快適な空間を提供し続けます。

製品製造・販売事業



京都合材工場



全天候型・高耐久型道路補修材
レミファルトST

アスファルト合材を製造・販売する工場を全国に展開しています。これらの工場では、舗装工事で現場から回収された舗装廃材を受け入れ、その全量を自社工場内で再資源化、再利用するリサイクルシステムを構築し「循環」を完結しているほか、燃料のガス化や省エネ機器の導入等によるCO₂排出削減に取り組んでいます。

開発(不動産)事業

デベロッパーとして、宅地建物分譲事業、マンション分譲事業「Le Cinq」シリーズ、オリジナル住宅事業「GRATIAE」シリーズ、賃貸事業「ABAS」シリーズなどを全国で展開し、環境と安全に配慮した街づくりに取り組んでいます。

海外事業

アジアやヨーロッパなどで現地ニーズに合った道路や空港、テストコースづくりを行ってきました。また、近年では日本の政府開発援助(ODA)事業として中央アジアやアフリカなど3カ国で道路整備事業などを施工、発展途上国でのインフラ整備に貢献しています。

舗装・土木事業
空港

舗装・土木事業
一般道路

舗装・土木事業



大分市営陸上競技場



皇居外苑(遮熱性舗装)

1934年の創業以来「道づくり」を中心に空港、スポーツ施設など、幅広く社会インフラの整備を行っています。近年は、環境に対する国民意識の高まりを受け、「CO₂排出量を削減する低炭素舗装」や「ヒートアイランド現象を抑制する舗装」などを国内で初めて開発し、沿道環境や地域環境の保全にも注力しています。

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの考え方

コーポレート・ガバナンス*の基本は、迅速かつ透明性の高い意思決定により、社会からの信頼を高めることであると考えて、その実践に努めています。

*コーポレート・ガバナンス：企業統治。会社の違法行為を監視したり、少数に権限が集中する弊害をなくし、適正な事業活動の維持・確保を目的とした会社システムのあり方。

▶ 経営の意思決定、執行、監督の充実

取締役会を毎月1回定期的に開くほか、必要に応じて随時開催し、経営に関する重要事項を付議決定しています。業務執行状況についても取締役会で報告されます。

経営体制の効率化と迅速な意思決定を推進するため、2004年6月の定時株主総会で、業務の執行体制の強化を目的に、執行役員制度を導入しました。これにより、取締役会は経営の意思決定および業務執行の監督にあたり、執行役員は、担当業務の執行に専念する経営体制が確立しました。

▶ 監査役会の機能の充実

監査機能の強化のため、社外監査役2人を含めた4人の監査役が、取締役会や支店長会議等の重要な会議への出席に加え、事業所および子会社の往査などにより法令遵守や業務の監査を行っています。

▶ 内部統制システムの整備

適正な業務執行を確実にするため、内部統制システムをさらに拡充させるとともに、内外情勢・経営環境の変化に応じて随時見直しを行い、より適切な内部統制システムを整備していきます。

▶ ステークホルダーへの情報開示の充実

ステークホルダー*の皆様に対して迅速で公平、かつ正確でわかりやすい企業情報の発信に努めています。開示方法は金融商品取引法および、東京証券取引所などの定める適時開示等に関する規則に則っています。このほか、当社ホームページなどでも適宜情報開示を行っています。

決算関連情報については、第2四半期決算および本決算発表後、アナリスト*やマスコミを招いて説明会を実施しています。新技術、新工法、話題となっている技術等については、マスコミ各社に適時情報提供しています。

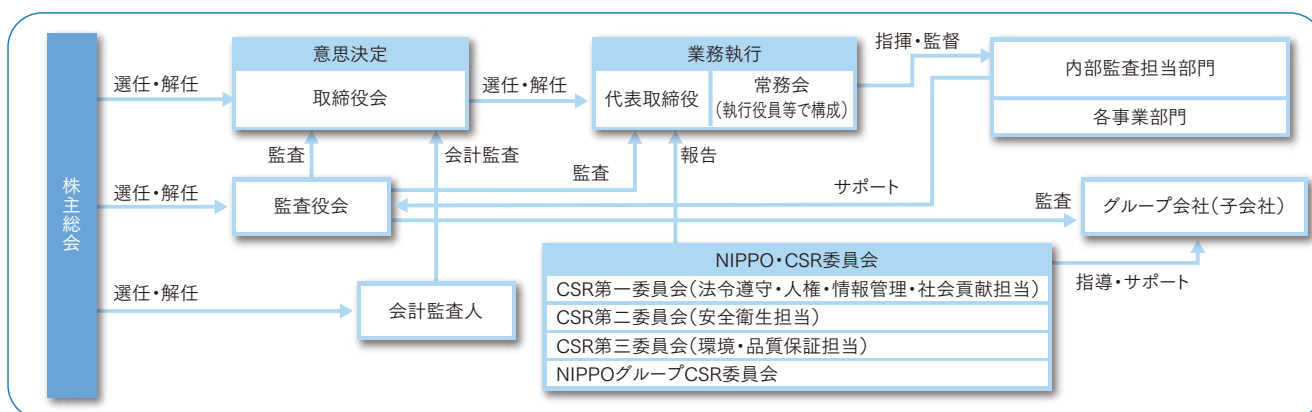
*ステークホルダー：企業に対して利害関係を持つ人。当社の主なステークホルダーは、従業員・消費者・株主・債権者・取引先・地域社会。

*アナリスト：社会情勢や業界動向などを分析する専門家。

▶ 事業継続計画(BCP)の見直し

首都圏直下型地震を想定してのBCPは、2011年国土交通省関東地方整備局から建設会社における「災害時の基礎的事業継続力」の更新認定を得ておりますが、今後も、訓練等を通じてさらに見直し、充実を図っていきます。

● コーポレート・ガバナンス体制図



私のCSR



九州支店 宮本 文

保健師として、日々、健康診断結果・受診票など個人情報に関する文書・書類を取り扱っています。書類に関しては鍵の掛かるロッカーに保管し、データとして残す場合もパスワードを入力するようにして、情報管理に細心の注意を払っています。

CSRマネジメント



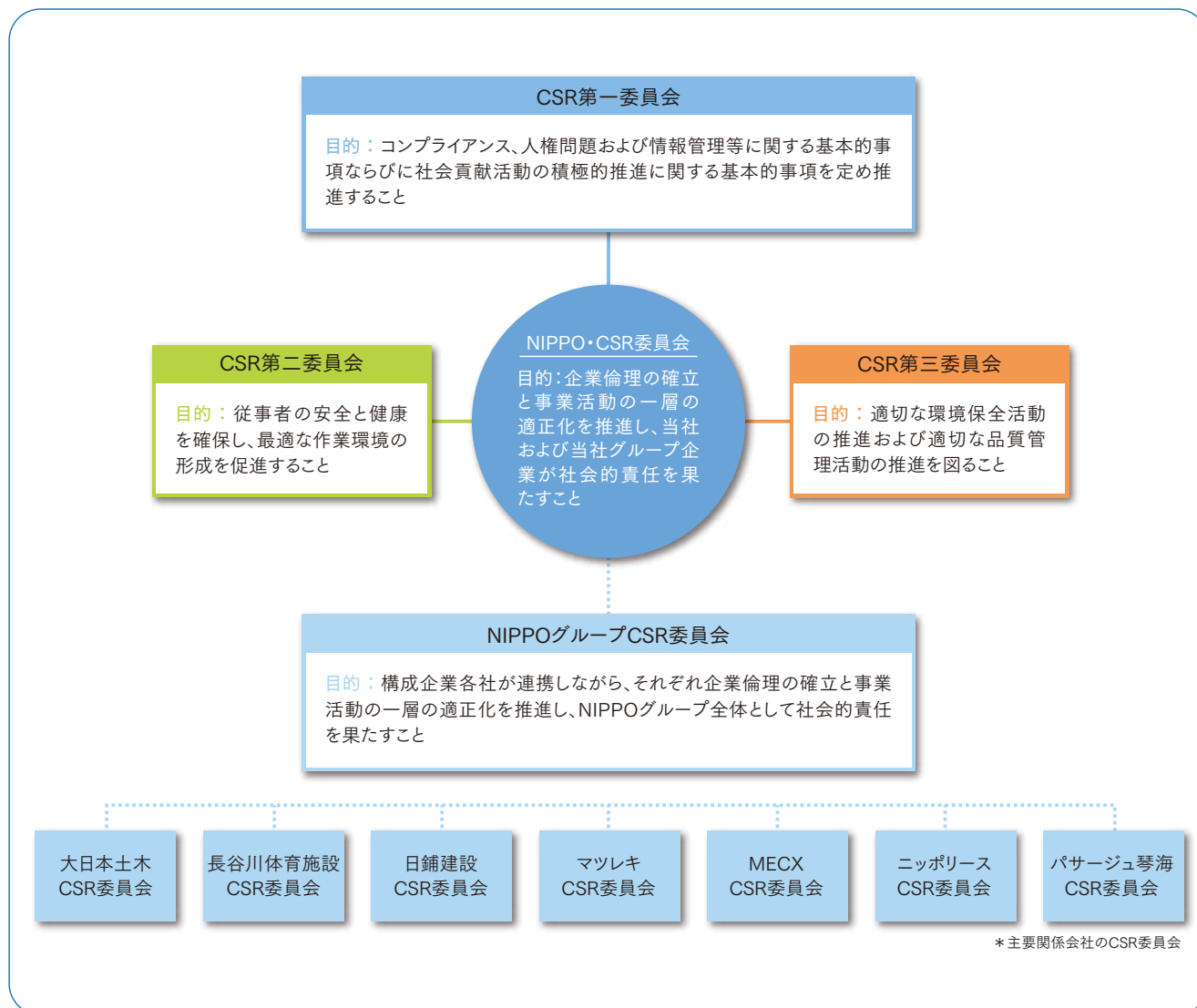
CSR体制

当社のCSR体制は、NIPPO・CSR委員会を最高意思決定機関とし、実施機関である3つの委員会に加え、グループ企業のCSR体制を統括するNIPPOグループCSR委員会で構成しています。

各委員会は、それぞれ全社委員会と本社・支店委員会を設置し、全社単位、本社・支店単位の方針を定めて活動しています。開催された委員会の協議内容は、社内ネットワークで公開することによって、全従業員のCSR意識向上に活用しています。

全社各委員会の活動目的等の概要は下図のとおりです。

● CSR体制と各委員会の目的



私のCSR



千葉出張所 秋田 敏勝

施工の際には、各種データや施工図面など、施主、元請け様からの情報を取り扱うことがあります。この場合は受取先、内容、受取媒体に区分して管理台帳に返却・廃棄予定、実施日などを記入して管理します。施工後の書類・図面は先方の了承をいただいた上で、確実に裁断処理を行います。基本とルールを守り、お客様の大切な情報をお預かりしているとの緊張感を持って情報管理を行っています。

コンプライアンスと品質保証体制

コンプライアンスの取り組み

潜在的リスクの排除を目的として、毎年全ての部署で遵法状況を調査して、改善の余地あるいは不適合の可能性のある項目を洗い出し、業務改善を行っています。社内ネットワークを通じて、業務に関連する様々な遵法ツールを従業員に提供するほか、業務の一環として、研修や会議の場では日常的にコンプライアンスの議題を取り上げて意識の高揚を図るとともに、現業に従事する従業員全員が毎日、遵法スローガン「企業行動5つの誓い」(P.1を参照)を唱和しています。

情報管理体制

当社では、個人情報を含む機密情報の管理基準を明確にし、各企業情報の漏洩防止等の安全対策を講じることにより、情報管理に関する関連法令や東京証券取引所が定める上場諸規則等の遵守に努めています。

品質保証体制

品質方針

株式会社NIPPOは、確かなものづくりを通して、人と社会の生成発展に貢献します。

[そのために]

- 一、私達は、望まれる確かな製品を提供し、顧客・利用者の信頼を築く。
- 一、私達は、後世に評価される技を磨き、技の大切さを教え、伝える。
- 一、私達は、現状に満足せず、情熱と向上心をもって、継続的改善に挑戦する。

舗装土木・開発部門を例に、品質保証活動についてご紹介します。

①審査機関による外部審査

2012年10月に、本社および3つの支店にて審査機関による外部審査(品質と環境を同日に実施する複合審査)を受けました。品質においては不適合事項5件、観察事項9件、環境においては不適合事項3件、観察事項19件がありましたが、12月に認証の維持継続が承認されました。

②内部監査の実施

本支店および現業事業所全体の約3分の1について内部監査(計175件)を実施しました。内部監査で観察された指摘事項に対して、該当部署で不適合状態の処置および必要に応じた是正処置を実施しています。

③改良・改善事例報告会を年1回開催

「確かなものづくり」を具体化するために、現場における改良点・改善点を考える習慣を身につけるとともに、生産性向上を図ることを目的に、2012年7月に開催しました。全国の応募から選定された20編が本社にて報告されました。



第6回改良・改善事例報告会の様子

④経営者(社長)による業務改善

経営者(社長)は、顧客満足情報と内部監査、品質目標管理等をもとに、業務改善につなげるための見直しを行い、社内規程の見直し・改善活動の完全実施等、必要な指示を行っています。

⑤本社による工事施工監査の実施

大型工事を対象として、個々の工事現場で実施している各種検査とは別に、社内検査(工事施工監査)を本社が直接実施しました(2012年度対象工事129件)。

アンケートより

- ◎ 品質保証に関しては、貴社は良くできていると思われるが取引先へも目を向ける協力会社一体型が望ましいと思う(取引先)
- ◎ 各支店、事業所の社員のコメントに意識の高さを感じる(取引先)
- ◎ コンプライアンスに関しても地域に密着した戦略が必要ではないか(取引先)

私のCSR



埼玉統括事業所 佐藤 哲臣

毎月の統括事業所会議、朝礼、研修等の前には必ず、法令遵守のスローガン「企業行動5つの誓い」を唱和し意識の高揚を図っています。また、毎年10月には、遵守状況調査項目に基づき点検等を実施し、改善点があれば改善し、支店からの巡回指導等を受け法令遵守を維持しています。

安全管理



安全衛生管理方針

2013年度 安全衛生管理方針

[方針] 人命尊重を基本理念とし、労働安全衛生マネジメントシステムを
実行し、安全衛生管理水準の向上を目指す。

- 1.安全作業4つの誓い項目を遵守すると共に、危険の芽を摘み
取り労働災害を防止する。
- 2.全員参加で、労働安全衛生マネジメントシステムを運用する。
- 3.労働安全衛生法令及び安全衛生管理規程類を遵守する。

[目標] 1.重機・車両災害、墜落・転落災害、土砂崩壊災害、非定常時災
害を防止し死亡災害「ゼロ」を達成する。
2.災害事故件数10%減。(2011年度事故発生件数×0.9×0.9)
3.快適な職場環境づくりを推進し、健康管理体制を強化する。

2012年度の反省と 2013年度の安全管理への取り組み

2012年度は「死亡災害ゼロの達成」というトップの強い意
志のもと、全社で一丸となり、「安全作業4つの誓い」を確実に実行
するとともに、現場進行に伴い発生する危険の芽を摘み取るこ
とに重点をおき、取り組んできました。しかし、残念ながら、国内
工事で2件、海外工事で1件の死亡災害を発生させてしまいました。
3件とも、重機または車両にひかれるという災害でした。重機
と人が接触すれば人が必ず負け、大きなケガや尊い命を失う事
が分かっているにもかかわらず、慣れや危険軽視から重機に近づいてしまっ
たことによる事故でした。

重機作業の基本である、重機・車両と人の分離を第一に実践
し、誘導員の配置または監視員による立入禁止措置の監視を
確実にいき、ヒューマンエラーにより稼働中の重機や車両に接
近しないように徹底し、再発防止に努めます。

また、当社の安全管理体制を整備するために、建設業労働安
全衛生マネジメントシステム(コスモス)を導入し、2013年3月25
日に全社一括認定(海外支店工事・JV工事は除く)を取得しま
した。2013年度から、システムの維持・改善に努め、安全管理体
制を整備いたします。

災害発生状況は次の通りです。

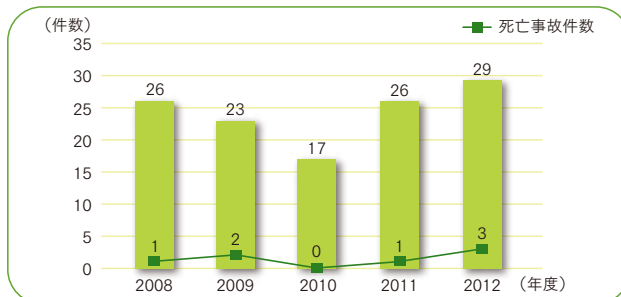
● 度数率・強度率

海外工事は含んでおりません

		2011年度	2012年度
		度数率	強度率
NIPPO	度数率	0.70	0.82
	強度率	0.31	0.60
建設業	度数率	0.85	0.83
	強度率	0.21	0.05

度数率：100万延実労働時間あたりの労働災害による死傷者数で災害の頻度を表す。
強度率：1,000延実労働時間あたりの労働損失日数で災害の重さを表す。

● 過去5年の災害件数(休業4日以上、物損50万円以上)



2012年度に発生した29件の災害の内訳は、労働災害が22
件、交通事故2件、公衆災害4件、その他1件でした。労働災害
22件中6件が「安全作業4つの誓い」を守らないで発生してお
り、2011年度と同件数発生しています。まだまだ唱和することが
目的となっており、2013年度は、「安全作業4つの誓い」の確実
な実施を重点的に活動していきます。また、現場内での携帯電
話の使用は話に夢中になると周りの危険が察知できないので、
歩きながらや作業しながらの携帯電話の使用を禁止しました。

職場の安全・安心・信頼を勝ち取るために「安全作業4つの
誓い」を確実に実行するとともに、重機・車両と人の分離を最優
先に実行し、建設業労働安全衛生マネジメントシステムの維持・
改善に努め、目標達成に向け活動していきます。

アンケートより

- ◎ 安全なくして「信頼」の二文字は勝ち取れない。一層の安全管
理の遵守と実践に努めることが大切だと思っている(従業員)
- ◎ 会社の方針がしっかりと掲げられ、詳しく記載され良い(従業員)
- ◎ 協力業者の安全活動の取り組みを記載したらどうか(従業員)

私のCSR



中日本管理支社 前田 裕子

当社の仕事は「危険」と隣り合わせである、ということ意識しながら働いています。私の業務は内勤なので、直接的な「危険」はありません。しかし、「危険」の近くで働いている方々と共に働く上で、その意識は重要だと考えています。「100%リスクが存在しないということはない」、その意識を持ちながら、自分の出来ることを一つ一つ実践していきたいです。

環境マネジメントシステム

環境方針

環境保全活動の継続的改善に努め、「環境保全と経済活動の両立」する持続可能な社会の実現に貢献する。

- 1.環境法令、その他要求事項を遵守して、適正な事業活動を推進する。
- 2.環境と資源を大切に、「地球温暖化対策」及び「循環型社会の構築」を基軸とした環境保全活動を推進する。
- 3.事業活動を通じて汚染の予防に努めるとともに、環境負荷の低減を推進する。

平成25年4月1日

株式会社 NIPPO

代表取締役社長 水島和紀

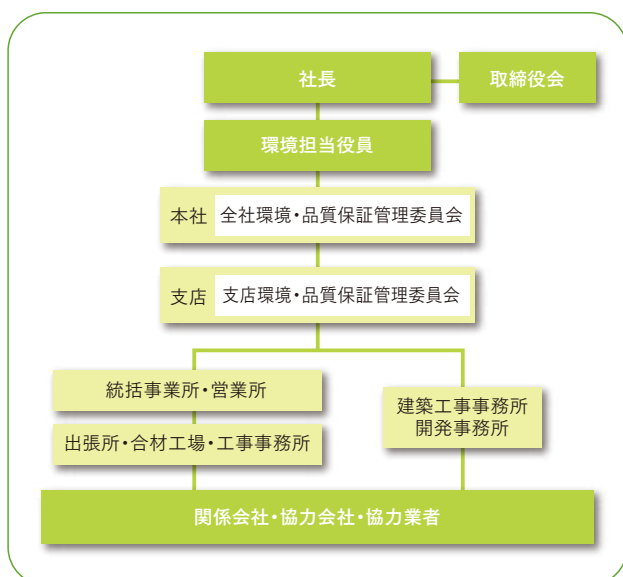
環境マネジメント体制

当社のCSRで、環境は最重要課題の一つです。

2013年4月の環境方針・環境保全活動項目に基づき、全事業所が年間の環境保全活動計画を策定し、現業事業所は地域の特性に応じた活動を推進しています。

また、全社および支店環境・品質保証管理委員会において、環境に関する収集データの内容や公害の未然防止、関係法令の遵守、環境保全の提案等を審議しています。

● 環境マネジメント体制図



環境保全活動の結果と今後の取り組み

CO₂排出量については、総排出量で2009年度比3.6%の削減、売上高原単位においても、5.3%削減と計画を達成することができました。当社でのCO₂排出量の90%程度を占めているのが合材部門です。製造数量が増加し操業度がアップした結果、原単位（製造数量）では2011年度よりも2.2%改善されましたが、目標の2009年度比3%削減に対しては3.6%増加（32.7kg-CO₂/t）となりました。今後も、ガス化など使用燃料の変更、高効率バーナーの導入など設備の改善により、CO₂排出量削減に努めます。

また、オフィス部門で取り組んだ電気使用量の削減については、2009年度比3%削減の目標に対し、5.9%削減と目標を達成することができました。

産業廃棄物の最終処分率については、2009年度に前倒して3年計画を達成し、2012年度も0.46%と「ゼロエミッション」を継続しました。しかし、混合廃棄物排出量は、2009年度比2%削減の目標に対し20%増加の結果となりました。混合廃棄物の排出量は工事内容に左右されやすく、混合廃棄物を排出する工事が多くのウェイトを占めたことが計画未達の主因です。今後は数値目標を設定しませんが、引き続き混合廃棄物の排出量削減に努め、3Rの推進と分別の徹底に継続して取り組みます。

アンケートより

- ◎ 目標と実績を明記している環境マネジメントの表は、御社の環境マネジメントの取り組みの真摯さを感じる（お客様）
- ◎ 環境面（CO₂低減）に対して積極的に取り組まれている姿勢は評価できる（取引先）
- ◎ 環境リスクアセスメントの話題が少ないのが気になる（取引先）
- ◎ 目標と実績表を非常に興味深く見させていただきました。特に「紙使用量の削減」について関心があります（取引先）

私のCSR



開発事業部 渡辺 奈美

開発事業部では環境保全活動のオフィスで活動できることとして、一般廃棄物の分別の徹底、電気使用量の削減、紙使用量の削減を掲げています。例えば、紙使用量の削減に関しては、なるべく両面コピーを利用し、印刷前に確認することでミスコピーを減らす活動をしています。些細なことなのですが、一人ひとりの活動が積み重なり、環境保全につながると考え取り組んでいます。



● 2012年度の目標と実績および2013年度の目標

◎ 100%達成 ○ 80%以上達成 △ 60%以上達成 × 達成率60%未満

区分	目的	対象範囲(組織)	2012年度の目標	2012年度の実績	評価	2013年度の目標
地球温暖化防止対策	CO ₂ 排出量の削減	全社(全部門)	—	総排出量 35.35万t-CO ₂ /年 (2009年度実績 36.67万t-CO ₂ /年) 2009年度比 3.6% 削減	—	—
			売上高原単位での削減 2009年度比 3%削減 (2009年度実績 130.56t-CO ₂ /億円)	2009年度比 5.3%削減 (123.7t-CO ₂ /億円)	◎	2009年度比 4%削減
		合材部門	合材製造(1t当たり)での排出量削減 2009年度比 3%削減	3.6%増加(32.7kg-CO ₂ /t) (2009年度実績 31.6kg-CO ₂ /t)	×	合材製造(1t当たり)での排出量削減 2011年度比 0.5%削減
		舗装・土木部門	売上高原単位での削減 2009年度比 3%削減	7.7%削減(17.0t-CO ₂ /億円) (2009年度実績 18.4t-CO ₂ /億円)	◎	売上高原単位での削減 2011年度比 1%削減
		建築部門	売上高原単位での削減 22.0t-CO ₂ /億円 以下	22.0t-CO ₂ /億円	◎	売上高原単位での削減 21.0t-CO ₂ /億円 以下
	電気使用量の削減	オフィス部門	2009年度比 3%削減 (2009年度実績 11,910MWh) ^{※1}	5.9%削減 (11,207MWh)	◎	2009年度比 4%削減
循環型社会の構築	産業廃棄物の削減	全社(全部門)	最終処分率 1.0%以下 (ゼロエミッションの継続)	0.46% ^{※2} (ゼロエミッションの達成)	◎	最終処分率 0.9%以下 (ゼロエミッションの継続)
			混合廃棄物排出量削減 2009年度比2.0%削減 (2009年度実績 3,006t)	20.0%増加(3,607t)	×	(排出量は工事内容に 左右されやすく、 活動は継続するが、 数値目標は設定しない。)
		舗装・土木部門	最終処分率 0.5%以下	0.34%	◎	最終処分率 0.5%以下
		合材部門	最終処分率 2.7%以下	1.71%	◎	最終処分率 2.8%以下
		建築部門 (解体工事を除く)	建築面積当たりの最終処分率 12kg/㎡以下	8.2kg/㎡	◎	建築面積当たりの最終処分率 11kg/㎡以下
	紙使用量の削減	オフィス部門	2009年度比 3%削減 (2009年度実績 187.9t)	3.2%削減 (181.9t)	◎	2009年度比 3.5%削減
環境負荷の低減	環境技術開発の促進	全社	1工法	1工法	◎	1工法
	環境配慮型工法 ^{※3} の技術営業推進		60億円	51.6億円	○	100億円 ^{※4}
	環境教育の推進		—	—	—	環境教育の実施 1回以上/事務所
	環境コミュニケーションの推進		CSRレポートの発行(9月)	CSRレポートの発行(9月)	◎	CSRレポートの発行(9月)

※1 1MWh=1,000KWh

※2 2008年度の建設副産物実態調査結果(国土交通省)での最終処分率は6.3%(発生量 6,380万トン)
(最終処分とは再資源化やサーマルリサイクルされないで、単純焼却および埋立処分された量)
(最終処分率=最終処分量/総排出量…全て重量換算)

※3 環境配慮型工法とは 「CO₂排出抑制、路面温度上昇抑制、省資源・リサイクル、土壌浄化に資する工法」とし、具体的には「遮熱性」「保水性」「エコ商品」「エコファイン」「表面処理」「クレイ系」「木質系」「天然芝」「土壌浄化」および「FRB工法」「スタビ工法」を対象としています。

※4 「FRB工法」「スタビ工法」は2013年度から追加する工法です。

私のCSR



西日本管理支社 稲辺 順二

私は、支店の採用担当として「適性・能力のみを基準として行うこと」を心掛けています。そのために、家族状況、住宅状況、思想信条といった本人の適性・能力に関わりがない事柄に関する質問はしないようにしています。

舗装事業における環境保全活動

環境型リサイクルへの取り組み

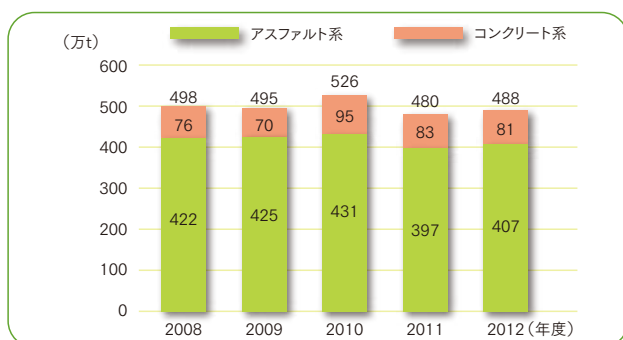
アスファルト合材工場では、資源の有効利用を図るため、建設副産物や他産業副産物のリサイクルに取り組んでいます。

▶建設副産物のリサイクル

当社は1950年代前半から、当時としては珍しかった「アスファルト舗装リサイクル技術」の研究に取り組み、現在の技術やシステムをほぼ確立して全国に展開しました。現在、全国に157カ所のアスファルト合材工場を保有していますが、このうち150工場でアスファルトやコンクリートのがれき類（建設副産物）を受け入れ、157工場で積極的に骨材として再利用し、再生合材、再生路盤材として製造・販売しています。

再生合材の製造比率は、2005年以降70%を超えており、再生資源の有効活用を推進しています。

●建設副産物受入量の推移



▶他産業副産物のリサイクル

1981年からは、家庭から出る一般廃棄物の焼却灰を処理して発生するゴミ溶融スラグをアスファルト舗装材料の一部として有効利用する研究を開始し、その技術を確立しました。

現在では、こうした取り組みを核に、全国の工場で、アスファルト舗装をその品質を低下させることなく、他産業から出る副産物を適正に処理して舗装材の一部に有効利用するなどの積極的な活動を行っています。

アスファルト合材工場での環境配慮

アスファルト合材工場では、化石燃料や電力などを使用してアスファルト合材等を製造していますが、周囲の環境に悪影響をおよぼさないよう、細心の注意を払い、対策を行っています。

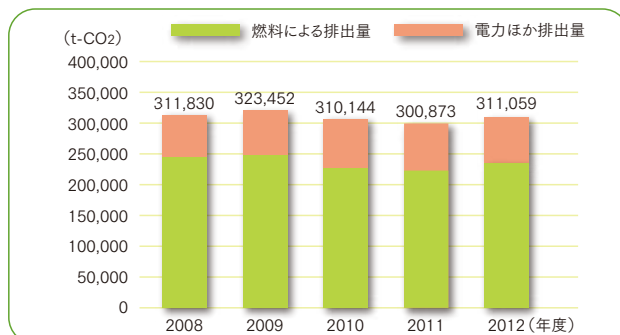
▶二酸化炭素排出量の削減

アスファルト合材の製造に伴って生じる二酸化炭素(CO₂)の排出量を削減するため燃料を重油類から、都市ガスや灯油等への切り替えを徐々に進め、省エネルギー型の設備や機器類も積極的に配備しています。2012年度末現在、都市ガス化した合材工場が13カ所、省エネ型の高効率バーナ(ハイブリットバーナ: 空気比が低く、広範囲の燃焼制御が可能)を導入した合材工場が60カ所となっています。



ハイブリットバーナの燃焼状態: 理想的な空気比で効率的な燃焼が維持される

●合材工場CO₂排出量の推移



●燃料使用によるCO₂排出量の推移(全社)

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
CO ₂ (トン/年)	242,174	245,271	226,955	224,043	236,551
原単位(kg/合材トン)	24.2	23.9	24.4	24.9	24.9
工場数	162	157	157	158	157

私のCSR



岩手統括事業所 西川 裕文

当支店では障害者の方も健常者の方と同様の仕事をいただいています。障害内容によっては対応が困難な業務もありますが、それについては周囲の仲間がお手伝いするのは当然のことだと考えています。チームとして日々の業務に関わり、働きやすい職場環境づくりに努めています。



▶ 大気汚染対策

工場周辺の空気を汚さないよう、定期的に窒素酸化物や硫黄酸化物、ばいじん等の排出量を測定・管理しています。また、法令基準より高い性能の集じん機を整備し、製造工程の様々な個所に、粉じんを飛散させないような設備等を設けるなどの対策を行っています。

● アスファルト合材工場からの大気汚染物質排出量 (単位:トン/年)

種類	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
窒素酸化物(NO _x)	197.0	103.8	96.8	114.0	112.2
硫黄酸化物(SO _x)	124.5	129.3	125.1	91.7	103.9
ばいじん	63.3	64.6	57.0	50.5	46.1

上位50工場のサンプリングからの推計でサンプル率は、約60%です。

▶ その他の環境対策

住宅地に接する合材工場では、騒音や粉塵の発生に対する苦情の出るケースがありますが、環境整備に努めることで、改善を進めています。また、アスファルトを加熱した際の臭気に関する苦情に対処するため、都市部にある主要15工場には、脱臭炉を整備しています。

プラントの更新時期に合わせ、環境対策型設備の導入を図るなど、環境整備・環境投資を続けています。



プラントを全閉型のシェルタータイプとし、都市ガスを燃料としかつ脱臭炉を導入するなど、2012年度に環境整備を図ったさいたま合材工場

舗装現場での環境配慮

舗装工事の際の主な環境負荷には、施工機械等による騒音、排出ガスによる大気汚染、CO₂、産業廃棄物の排出などがあります。

▶ 施工機械の騒音・排出ガス対策

舗装工事に使用する施工機械を順次、環境負荷の低い排ガス対策型・低騒音型に切り替えています。2010年度までに、保有機械の90%を排出ガス対策型に、84%を低騒音型に切り替えました。対策済みの施工機械は、主に規制対象地域で使用していますが、対象地域以外でも積極的な使用を推進しています。

● 施工機械の環境対策整備状況 (台)

	2010年度			2011年度			2012年度		
	保有	対策	率	保有	対策	率	保有	対策	率
排出ガス対策型	170	153	90%	113	100	88%	95	84	88%
低騒音型	296	248	84%	224	194	87%	205	182	89%

▶ 二酸化炭素排出量の削減

施工機械や資材を運搬するダンプ、トラック等のアイドリングストップを推進しています。また、施工機械は更新時に、低燃費型に切り替えています。

輸送行程での環境配慮

輸送行程での主な環境負荷は、ダンプ、トラック等の燃料消費に伴うCO₂の排出と騒音です。アスファルト合材の材料となる骨材の運搬は、自動車輸送から海上輸送へ切り替えを進めており、一定量(全骨材使用量の約5%)を海上輸送にて行っています。2010年度28万トン、2011年度26万トン、2012年度28万トンの骨材を海上輸送により受け入れています。

アンケートより

- ◎ 現在問題になっているCO₂排出量を低減する技術の事例が分かりやすかった(学生)
- ◎ 石油枯渇に対しての対策が見えない(従業員)
- ◎ 特殊舗装をもう少し取り上げてください(従業員)

私のCSR

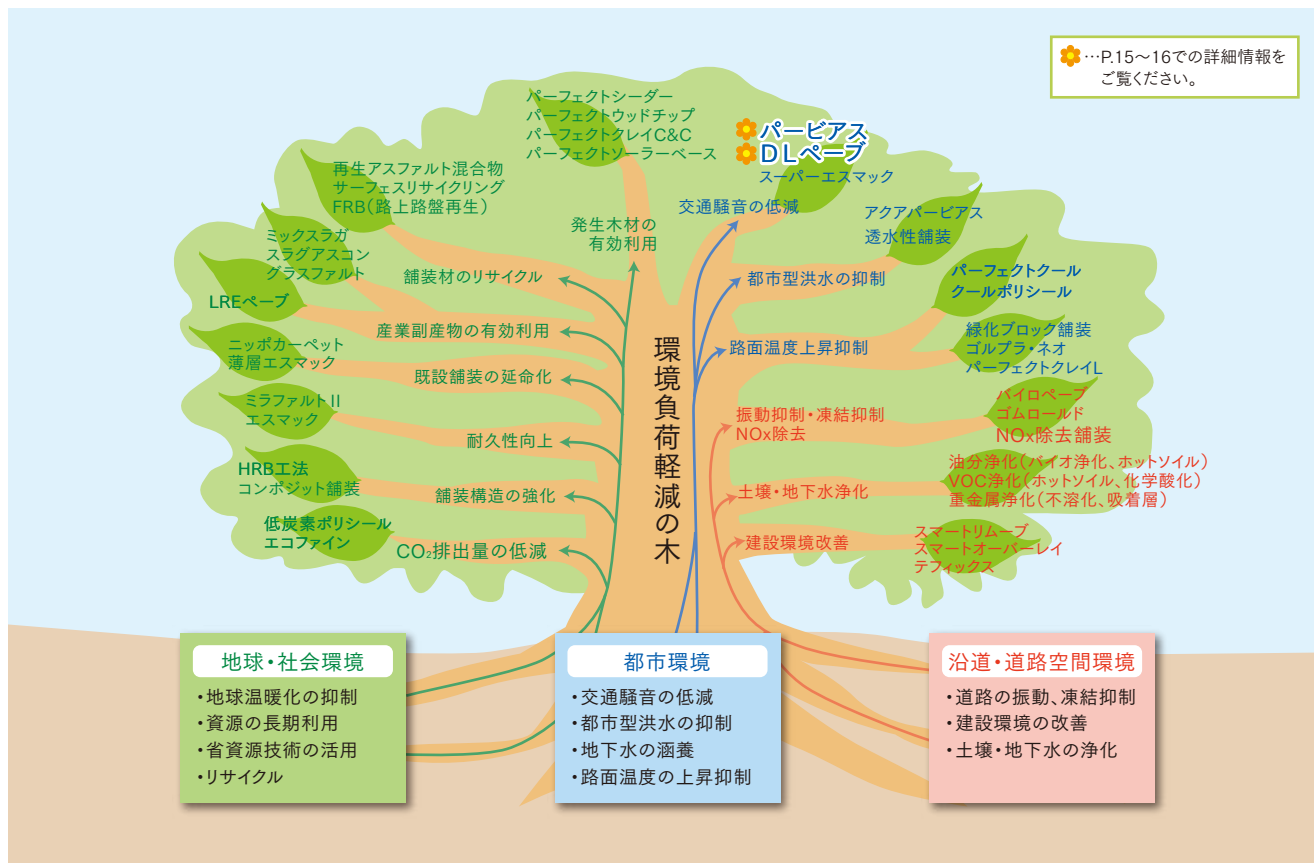


東日本管理支社 渡邊 稔信

私たちの事業所は、西新宿クリーンデレーに所属し、毎月第一水曜日に新宿中央公園周りの清掃ボランティアを実施しています。二次災害予防のため、交通量の多い車道を避け、歩道を中心にタバコの吸殻、空き缶等を拾い、地域の環境美化に努め社会貢献活動を実施しています。今後も仲間の輪を広げ、継続していきたいと思っています。

舗装事業での環境技術

● 環境舗装・資材のラインナップ



排水性アスファルト舗装 パビーアス

パビーアスは、一般的な舗装とは異なり表面の材料が多孔質になっているため、透水機能や交通騒音低減機能を持つ舗装です。通過車両による雨天の水跳ねを抑制し走行騒音を低減できるため、歩行者や沿道住民に優しい舗装です。

また、雨天の路面に関して、すべり抵抗性やラインなど視認性に優れ、対向車のヘッドライトの路面反射を緩和するため、走行中の車両の交通安全にも寄与します。

わが国初の排水性アスファルト舗装として、1987年に東京環状7号線で試験施工されて以来、そのメリットが高く評価され累計の施工面積は2,200万㎡に及んでいます。



パビーアスの舗装表面
(右下は15cm定規)



雨天での供用状況
(手前：パビーアス、
奥：一般的な舗装)

私のCSR



福井出張所 関口 和義

「安全」「品質」にゴールはありません。「安全」とは常に働く仲間が悲しい想いをしないよう、まずは自分の身を守り周りの仲間の安全を考えて作業に従事する事。「品質」とはお客様の要望に応える事が第一で限られた予算の中で確かなものを納める事。どちらも個人の能力だけでは成り立たないゴールのないマラソンです。工場あわせて総勢18名で脱落者が出ないよう一步一步進んでいます。



2層同時舗設式工法 DLペーブ

舗装は断面的に異なる材料を、底から順次何層かに積み上げて造ります。DLペーブは、一般には分けて施工する1番上の層(表層)と2番目の層(基層)を、特殊な施工機械DLペーバにより1回で施工する工法です。

2回分を1回で施工するため工事規制期間が短くて済み、交通渋滞や路上工事に伴う沿道住民の迷惑を軽減することができます。また、表層の厚さが薄いほど大きな交通荷重が作用する表層基層間の継目がないため、表層の薄層化が可能となります。カラー舗装など表層に高価な材料を使う場合、薄層化により表層の材料を削減し舗装の建設コストを縮減することができます。

※DLペーブ: Double Layer Pavement(2層舗装)

DLペーブの
施工イメージ図



施工断面例
(上層:排水性舗装(赤色)、
下層:一般舗装(黒色))

アンケートより

- ◎ ウレタンパーソフトセーフティにての舗装により子どもたちの安全確保という点でとてもいい商品だと思いました(取引先)
- ◎ 舗装事業の環境技術だけでなく土木全般における環境技術の取り組みがあればよいと思います(取引先)

地震対策型段差抑制工法「HRB工法」 関西道路研究会で優秀業績賞を受賞

当社が中央大学研究開発機構、前田工織と共同開発した地震対策型段差抑制工法「HRB工法」が、「インフラの安全確保に重要な役割を果たす有益な舗装技術」と高く評価され、大学や官庁、企業などで構成される関西道路研究会で平成23年度優秀業績賞を受賞しました。

※HRB: Hazard-Reducing Bed(減災路盤)



表彰状

FRB工法

FRB工法は、損傷のあるアスファルト舗装を現場において粉碎し、セメントやアスファルト等の安定剤とともに既設路盤材と混合することによって、路盤を再生する工法です。既設舗装材の搬出や新規路盤材の搬入なしに新たな路盤を構築できるため、産業廃棄物の削減、資源の保全、材料運搬時のCO₂削減等に貢献します。当社が他社に先駆け1977年に本工法を開発導入して以来、積極的に営業展開を進めてきたことが評価され2012年度リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞を受賞しました。

※FRB: Feild Recycling Base(路上再生路盤)



私のCSR



横浜出張所 有馬 真二

工事現場は、危険と常に隣り合わせです。現場では当たり前の事が、第三者から見れば「危ない」と思うこともあります。当事業所では、常に第三者の目線で安全対策を考えることを実行しています。現場が安全なら必然と品質も向上します。全員が、安全と品質は一体との認識を持ち、安全管理に取り組んでいます。

戦略事業における環境・安全配慮

不動産開発事業における環境・安全配慮

不動産開発部門では、環境と安全に配慮し、永く安心していただける住環境の提供を柱とした不動産事業を全国で展開しています。

●マンション分譲事業

5つの価値を追求するル・サンクスシリーズ

●再開発事業

現代都市の安全で安心な街づくり

●不動産賃貸事業

資産価値を追求するアーバスシリーズ

住宅商品の提供にあたっては、「お客様が住んでよかったと思っていられる商品を提供する」「企画では、単に規格品でなく、心を込めた手づくりプランを基本とし、絶えず先進のシステムを開発する」「良いものを割安な価格で提供する」の3点を基本方針として取り組んでいます。

具体的な取り組みとして、「環境：エコ商品の採用、省エネルギー住宅、24時間換気システム」「安全：セキュリティ、免震・制震・耐震構造」「管理：維持管理の取組強化による資産価値の向上」の3点を重点項目としています。

▶安心・安全を追求した街づくり

全国でマンション分譲を5,000戸・戸建宅地分譲を4,400戸の供給実績があります。基本計画に免震・制震・耐震構造の採用を検討し、震災に強い街づくりを目指します。

また、省エネ対策として「LEDの採用」「電気自動車対応充電装置の設置」「太陽光発電システムの採用」「省エネ型給湯器の採用」「高断熱仕様資材の採用」等のエコ仕様をマンション・戸建・ビル建設事業に積極的に展開しています。

▶都市再開発事業の展開

全国の主要都市において、住環境の新しい様々な課題に対応し、地域の特色・文化や伝統を十分に考慮し、

- 安心で安全な街づくり
- 地域の歴史、文化を活かした美しい街づくり
- 活力とゆとりのある暮らしを実現する街づくり

を目指しています。

▶「芦ノ湖スカイライン」の運営・管理

当社100%出資子会社芦ノ湖スカイライン株式会社は、芦ノ湖スカイライン有料道路の運営・管理を行っています。当社の長年培ってきた経験・技術力を活かし道路の損傷・劣化等を将来にわたり把握することで、効率的な維持管理の実現を図ることを目指しています。

＜安全に配慮したメロディペーブ工法の採用＞

芦ノ湖スカイラインでは、安全に配慮した道路運営管理を目指して、当社が開発した「メロディペーブ工法」を採用しています。

メロディペーブは、一定の速度で走行すると車内でメロディが楽しめ、また安全性も向上します。

＜安全性の効果＞

メロディペーブ工法は以下の安全性に効果があります。

- ・走行スピードの制御
- ・うっかり、ぼんやり防止
- ・スリップ防止
- ・野生動物の飛び出し防止
- ・排水性の効果



メロディペーブ
施工状況



芦ノ湖スカイラインと
富士山

私のCSR



建築設計グループ 村岡 莉紗

入社から2年ほど現場施工管理を経験し、現在の建築設計グループに配属され約半年が経ちました。感じたことは「現場は生き物」ということ。竣工までにはその都度様々な問題が付きものですが、設計段階でより多くの問題を予測し対策をとり、お客様に満足していただける建物を設計できる技術者を目指しています。



建築事業における環境・安全配慮

建築事業では建物の計画・設計段階から環境負荷低減に取り組み、施工段階では産業廃棄物・CO₂排出量の削減、社会貢献活動の推進等、具体的な数値目標を設定し環境保全活動の強化を図っています。

▶ 設計段階での提案・施工事例

計画・設計段階では太陽光発電、壁面・屋上緑化、高断熱化、LED照明およびライフサイクルCO₂の排出削減等の提案、採用を推進しています。

また、環境関連の技術開発として工業化工法、アルミブレース耐震工法、アルミドーム工法に取り組んでいます。



アルミブレース提案事例 アルミドーム施工状況 アルミドーム設置事例

▶ 施工段階での取り組み事例(省力化工法)

建築現場での環境保全の取り組みとして、工業化工法、地組み工法等の省力化工法の採用を推進しています。省力化工法を採用することにより、産業廃棄物削減、CO₂削減、品質向上、安全確保を図っています。



鉄筋地組み工法事例

土壌浄化事業における環境・安全配慮

環境事業部では「より確実に、より安く、より早くお客様の立場でサービスをご提供します」を念頭に、土壌環境に関する課題を

お持ちのお客様からご相談を受けた場合、トータルエンジニアリングとして、その調査、分析、汚染の評価、対策計画、工事および監視に至る一貫したシステムサービスをお客様の立場に立ててご提供いたします。

特に浄化工事では大地を再生する独自の浄化システムの数々ある工法の中から、その選定にあたっては、敷地面積、工事期間、周辺環境等さまざまな要素を考慮する必要があり、3,000件を超す、数多くの実績(2013年3月末現在、土壌対策工事実績978件、土壌調査実績2,282件)から環境・安全に配慮した施工を行っています。

▶ 浄化工事における環境配慮

2010年に土壌汚染対策法が改正されましたが、その背景として浄化対策の方法が掘削除去に偏重しているという問題が指摘されていました。掘削除去は工期や品質の確実性でメリットがある一方で、不適正処理による汚染の拡散や最終処分場のひっ迫等の環境負荷を課題とするものです。当社では、土壌運搬によるCO₂の排出や埋め戻しに使用する良質土の使用量を削減するために、土壌を持ち出さずにオンサイトで汚染物質の処理を完結させる原位置工法の適用率および確実性を向上させ、汚染状況や現場条件に応じた工法をご提案することで、お客様と一体となって環境負荷の低減に取り組んでいます。



原位置工法による施工状況の一例

「土壌・地下水浄化事業」の紹介ページ

<http://www.nippo-c.co.jp/ourbuiss/clean/index.html>

「土壌・地下水の浄化技術」の紹介ページ

http://www.nippo-c.co.jp/tech_info/dojyou.html

アンケートより

- ◎ ル・サンク大崎ウィズタワーの安全配慮には、東日本大震災の教訓が活かされているな、と感じた(従業員)
- ◎ 土壌浄化等社内でも一部の人が知らないこと等を開示しているのがよい(従業員)

私のCSR



袖ヶ浦出張所 佐藤 和明

確かなものづくりを進める上で顧客が求める仕上がりはどうか?求める品質は何か?を貪欲に情報収集し、いかに現場に反映させるかということを心掛けております。実際の現場において顧客を踏まえたPDCAサイクルの確実な実行こそが信頼構築に繋がっていくものと感じております。

お客様の信頼を得るために

お客様の満足実現とお客様からの信頼を得るために、ニーズを確かめながら、品質の高い製品を供給することに努めています。また、当社の技術力をPRし、お客様との関係を深めていくことに努めています。

お客様満足を実現するために

お客様満足の実現のためには、お客様がどのようなことに困らされていて、どのようなことを望まれているのかというニーズの的確な把握と原因の分析が欠かせません。原因分析により困りごとへの対応方法が変わってくるからです。お客様の窓口は利用者とは限りません。利用者の不満や不安をお客様の窓口とのコミュニケーションの中から分析し対策を立てていかなければ、満足度は中途半端なものになりかねません。きめ細かなコミュニケーションにより、施工の時期、条件、品質、近隣の皆様への配慮などを確実に施工部署に伝え、見積もり、設計、施工の各段階に反映させることで、お客様満足の実現に向けて進んでいきます。

利用者目線でのものづくりのために

当社が施工する施設は建設後多くの方々に利用されます。

歩道の遮熱性舗装は、ヒートアイランド現象への対応とともに歩行者が少しでも歩きやすい道をとというニーズに応えたものです。建築用遮熱塗料は節電対策から注目されています。

道路も同様に「交通事故が起きにくく安全に走れる道路」に対して、雨天時の水はねを防止するための排水性舗装や、工事に伴う道路通行止めの時間短縮を図るための工法や材料の開発等最終的な利用者の利便性を追求しています。

確かなものづくりのために

お客様による工事目的物の検査、引き渡しに至るまでの各段階で様々なチェックを行います。施工の各段階での、品質検査、結果の整理・確認を行い、不良原因の早期発見・排除を進め、

品質の確保に努めています。事前に社内での完成検査を行い引き渡しをできる状態か厳重なチェックをした上で、お客様の完成検査を受けています。そうすることでお客様が満足する品質を提供できる体制を整えています。



国土交通省四国地方整備局長からいただいた優秀貢献工事の表彰状

技術力と技のPRのために

当社の技術力と技をPRするコミュニケーションツールとして、ニッポ・ニュースやホームページがあります。

ニッポ・ニュースは当社が持つ様々な工法についての情報を掲載したもので、年6回発行し、お客様にお届けしています。タイムリーな施工実績の紹介が好評です。

当社ホームページにも「技術情報」のコーナーを設けており、誰でも簡単に当社の技術に関する情報を閲覧することができます。また、「問い合わせフォーム」を通じていただくご質問・ご要望には、担当者が迅速にお答えしています。2011年度は239件、2012年度には258件のご質問・ご要望をいただきました。

ニッポ・ニュースは、ホームページよりご覧になれます。

<http://www.nippo-c.co.jp/>

アンケートより

- ◎ お客様と従業員、どちらの場合も人とのコミュニケーションを大切にされていると感じました(取引先)
- ◎ 関係官庁・建設業者からのNIPPOに対する要望事項を取り上げると社員教育に役立つのではないかと(従業員)

私のCSR



九州建築工事事務所 亀崎 健吾

顧客満足度向上のためには、顧客とのコミュニケーションが欠かせません。仕様書どおりに施工した建物を提供しても、顧客に満足していただかなければ意味がありません。私は顧客が心に思い描く完成予想図を、きめ細かなコミュニケーションを通じて具現化し、工事に携わる者全員が、それを共通の指標として行動できるよう心掛けています。

従業員とのかかわり



当社では、従業員一人ひとりがやりがいのある職場をつくること、社会的信頼の維持・向上を図るため人権問題等に関する基本的事項を推進することをCSRの柱の一つとして位置づけ、「労働環境整備の推進」、「人権問題に関する啓発活動の推進」、「高齢者・障害者雇用の推進」「次世代育成支援対策の推進」および「健康増進(心とからだ)の推進」に取り組んでいます。

また、能力開発、資質の向上のための従業員教育を充実させ、社会に誇れる従業員の育成を図ります。

労働環境整備の推進

建設産業においては、天候等の自然環境や交通事情等により仕事の進捗状況や施工方法が左右されるため、労働時間が不規則となる傾向があります。このため不定期に過重労働になる場合があります。健康障害防止対策の徹底が求められています。当社では、こうした問題に対して、労使で構成する労働時間検討委員会にて対応策を検討し、実施しています。過重労働による健康障害防止対策としては、疲労蓄積度セルフチェックを実施し、必要に応じて保健師の面談や医師の面接を行っています。そのほかの職場における問題についても、労使共通の認識を得られるよう各支店の労使懇談会等で話し合いの場を設け、より良い労働環境の実現に向けて努力しています。

人権問題の啓発活動

人権問題に対する理解を深めるため、従業員への啓発活動を推進しています。今後も研修等を通じ、従業員の意識向上を図っていきます。

従業員教育

従業員教育の一つとして、CSRの徹底を図るために、業務運営に直結した本社部門連携研修を実施しています。一人ひとりがCSRの重要性を認識し、日常業務でCSRの確実な実践により企業価値を高めることを目指します。

高齢者・障害者雇用の推進

健康で、働く意欲のある定年退職者に、「生涯現役」として活躍していただくため、満65歳までの再雇用制度を導入しています。また、障害者の雇用については、全国の支店(12カ所)ごとに法定雇用率(2.0%)の達成を目標に定め、2013年6月1日現在の雇用率は2.07%となっています。

次世代育成支援対策の推進

仕事と子育ての両立が可能な働きやすい環境をつくることで、従業員全員がその能力を十分に発揮できるようにするため、2010年4月1日から2015年3月31日までの5年間で①育児・介護休業法等の諸制度の周知、②年次有給休暇の取得日数を増やす(年間7日/人)、③子供が保護者である従業員の働いている姿を見学できる「子ども参観日」の完全実施、を達成すべく目標に定め、取り組んでいます。

健康増進(心とからだ)の推進

従業員の健康管理は、労働安全衛生法に則した定期健康診断を基本として、保健師の指導や本人が検査項目を選択できるオプション健診を取り入れ、きめ細かな健診ができるように配慮しています。メンタルヘルスについては、対応マニュアルを社内イントラネットに掲示して従業員に周知しています。今後も従業員の心身両面にわたる健康づくりと、従業員を支える家族の健康管理に配慮していきます。

アンケートより

- ◎ 従業員を大切にしているという項目はよかった。取引先(下請け業者)も大切にしているという項目があればなおよい(取引先)
- ◎ 社員の方の人間性が良いと思います。社風が良い印象です(取引先)

私のCSR



九州支店 野島 隆夫

従業員を採用する際には、応募者の基本的人権を侵害したり、差別をするようなことがないよう配慮し、求人条件に適合する全ての人が応募できるという原則を守っています。本人の適性・能力以外の部分を採用の条件にしないこと。例えば、家族状況、親の職業、思想・信条などで判断していません。

社会とのコミュニケーション

災害復旧支援活動

当社では、災害時のインフラ復旧などの重要な役割を社会から期待されていることを深く認識し、自然災害が発生した場合には、長年培ってきた土木技術と全国の事業所網を活かして、いち早く復旧支援体制を組み、現場に駆けつけます。

人命救助・消火などの緊急車両通行や人員・援助物資輸送など、災害時の「道路復旧による通行の確保」は極めて重要です。当社は、地元自治体等と連携して、全力で道路復旧にあたり、一日も早い復興を支援します。

2011年に発生した東日本大震災では震災直後から高速道路復旧に従事し、現在でも被災各地で生活道路の復旧作業が続いています。当社は「元に戻す」復旧作業だけでなく、「災害に強いまちづくり」「環境に配慮した道づくり」で被災地の復興に貢献していきます。

2013年には、放射性物質に汚染されたアスファルト舗装道路の表面を、薄く削り取ることで除染する「薄層切削路面除染システム」を開発し、福島県内で実証実験を行いました。一般的な路面切削機を使うと、30～40mm程度になってしまう切削の厚さを5mm以下に抑え、除去物減量に貢献します。今後も、培った技術を活かし、被災地に必要とされる復興支援活動ができるよう、検討を続けていきます。

一方で、首都圏直下型地震を想定しての自社の事業継続計画(BCP)は、2011年国土交通省関東地方整備局から認定更



福島県で実証実験を行った薄層切削路面除染システム

新を得ておりますが、今後も、訓練等を通じてさらに見直し、充実を図っていきます。

社会貢献活動

▶スポーツ振興への取り組み

当社は、「ツアー・オブ・ジャパン」「ツール・ド・北海道」「ジャパンカップ」等の自転車ロードレース競技への協賛と「日本舗道レーシングチーム」に端を発する「チームNIPPO」への支援とともに約20年にわたり継続して、自転車競技の振興をお手伝いしています。

2012年の「チームNIPPO」の国内の主な大会成績は、次のとおりで、国内トップ、アジアでも最上位にランクされるチームです。

ツアー・オブ・ジャパン：三冠優勝

(個人総合、個人山岳、チーム総合)

ツール・ド・熊野：四冠優勝(個人総合、個人ポイント、個人山岳、チーム総合)

ツール・ド・北海道：二冠優勝(個人総合、個人ポイント)、チーム総合3位

このほか、剣道部は各種大会で連続入賞、テニス部は関東実業団リーグへ駒を進めるなどの活躍を通じて、スポーツ振興に取り組んでいます。



ツール・ド・北海道2012の競技風景

私のCSR



三原出張所 山田 憲吾

三原出張所と三原合材工場では1年に一度、道路クリーン活動として全員で事務所前の国道歩道の清掃を行っています。普段は車でしか通ることのない道を歩くと、ポイ捨てされたゴミの多さに驚きます。現場でも自分の足で歩いて確認する大切さを改めて実感します。



▶ 地域とのコミュニケーション

当社は、アスファルト合材の販売数量に応じて、売り上げの一部を「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付する独自の取り組みを行っているほか、スポーツ、学術・研究をはじめ国際交流等の寄付を通じて、社会の期待に応えています。

また、全国400近い事業所では、地域の祭礼や町内会・子供会等の交通安全、防犯活動等のイベントに従業員が積極的に参加するとともに、多くの事業所で、独自の清掃・環境整備活動を自主的に実施しています。



北海道帯広市立啓北小学校で行った除雪機械の試乗体験



建設中の道路を開放し地域住民と行ったウォーキングイベント

千葉県木更津市立馬来田小学校で実施したグラウンド整地。児童の育成に貢献したことに対し、同校より感謝状をいただきました。



▶ 次世代を担う子どもたちへ

当社が制作に全面協力した、学研パブリッシング社の「まんがでよくわかるシリーズ」77作目の「道づくりのひみつ」が発行されました。これは、次代を担う子どもたちに向けて、道路舗装についてマンガで分かりやすく紹介したもので、全国の小学校約23,500校と公立図書館約3,000館に寄贈され、長年にわたり子どもたちに読まれることになります(この本は、書店では扱っていません。図書館でお読みください)。

また、当社のホームページでは「キッズサイト道づくり探検隊!」のコーナーを設けています。クイズなどで、子どもたちが道づくりの知識を楽しく身近に学ぶことができます。



アンケートより

- ◎ 東日本大震災の復旧工事だけでなく、災害に強いまちづくりに今後どのように取り組んでいくのか示されていてとても良いと思った(学生)
- ◎ 東日本大震災を受けて、少しでも多くのNIPPOの技術や工法が災害に強いまちづくりに貢献されることを願っています(NGO)
- ◎ 震災復旧工事など応急対応の技術、組織力に感動しました。大変だと思いますが今後も作業に当たられている方々にはご安全に頑張ってくださいと思います(取引先)
- ◎ 各都道府県単位でのCSRの取り組み情報の記載があってもよいと思う(従業員)

当社では、CSR活動を一層推進させるために、ステークホルダーの声を重視しています。2012年度CSRレポートでは、アンケートに対して読者の皆様から計885件のご回答をいただきました。

そこで、2012年度に引き続き、いただいたご意見・ご質問のいくつかについて、当社の考えや取り組みを回答いたします。

Q

現場従事者の技術・技能向上が必要だと思うのですが、具体的にどのようなことをしているのでしょうか？



A

当社では企業理念である「確かなものづくり」を実現するため、常に現場の技術・技能向上に努めていくことが大切だと考えています。従業員教育に関しては「職場研修」「自己啓発」および「集合研修」を3本柱とする研修を実施しています。

「職場研修」は各自日常業務の遂行を通じて計画的かつ個別に、具体的な指導・育成を実施しています。「自己啓発」は公的資格の取得などに関する通信教育を修了者に対して費用全額補助で実施しています。「集合研修」は階層別（管理者、実務担当者など）に研修施設に宿泊して数日間にわたり各課程で研修しています。例を挙げますと新入社員研修、入社3年目中堅社員のフォローアップ研修、新任監督者研修などがあります。

その他、各部、支店単位でも、実地試験・施工を含めた研修を行っています。

Q

CO₂排出量削減のため合材工場での都市ガス化や省エネ型バーナの導入は素晴らしいと思いました。コスト的にはどうなのでしょう？

A

省エネルギー型設備の導入は、CO₂排出量を削減するとともに燃料使用量も削減しています。そのため、結果としてコスト削減にもつながっています。合材製造数量にもよりますがバーナ導入コストを1～2年で回収する場合もあります。

2012年度末現在、都市ガス化した合材工場は13カ所、省エネ型バーナの導入は60カ所となっていますが、今後も計画的に増やしていくことで、環境保全とコスト削減の両立に取り組んでいきたいと考えています。（本文P.13をご参照ください）

Q

土壌浄化についてもっと知ってほしいので、関連記事を増やしてほしい。

A

当社では「地球の自浄能力を超えた汚染は未来に負の遺産を引き継ぐことになる」という問題意識に基づき、土壌の調査・分析から浄化・モニタリングまでの一貫したサービスをご提案しています。

今年度のCSRレポートでもP.18にて取り組みを紹介していますが、紙面の関係上、記事量を増やすことが難しいため、2012年度は当社ホームページの土壌浄化に関するURLを併記しました。ホームページでは、事業紹介のほかにも、土壌や地下水を浄化するための各種技術について詳しく紹介しています。



Q

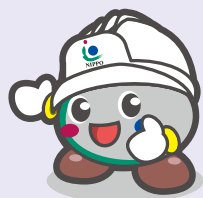
地域活性化の取り組みについて、もう少し充実させたほうがよいのではないのでしょうか？

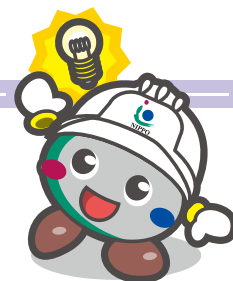
A

当社では地域活性化に貢献するため、様々な社会貢献活動を行っています。2012年度の社会貢献活動についてはP.21・22で報告しておりますが、そのほかの取り組みとして、事業所で実施している「こども110番の店」への協力が挙げられます。

実施事業所では、地域の子どもが相談や助けを求めてきた場合の「対応要領」を掲示・回覧して、従業員が地域の子どもたちを守る体制を整えています。

今後も地域の一員として協力できることに努め、地域活性化に貢献していきます。





Q 協力業者への安全活動の取り組みを記載してはどうでしょうか？

A 当社は施工や輸送などにあたり、様々な協力会社に支えられて事業を実施しています。協力会社の従業員に関しても当社従業員と同様、安全には万全の注意を払って作業にあたってもらっています。

具体的には、各統括事業所で開催している安全大会で当社の安全衛生方針を伝達し、ルールの再確認や協力業者による相互パトロールを行い協力業者の安全管理意識の向上に努めています。



Q 最近、アスファルト舗装の凹凸が多く見かけられます。特に信号機の停車線付近は多いようです。重量オーバーのトラックによるものもあると聞きます。何か良い対策はないものなのでしょうか？

A 信号機の手前は車がブレーキを繰り返しかける所で、走行時と比べ前方車輪に大きな荷重がかかります。さらに数分間ではありますが、ほぼ同じところに車が繰り返し停車することなども凹凸発生要因の一つです。特に夏はアスファルト舗装の温度が60℃以上となると舗装がやわらかくなり、材料が流動してできる「わだち掘れ」が起きやすくなります。

その対策として硬い舗装材料や、温度によりやわらかくなりくい材料を使用することがあります。一例として「半たわみ性舗装(商品名:ポリシール)」があります。ポリシールはアスファルト混合物とセメントミルクを使用した材料で出来ており、通常のアスファルト舗装に比べ、硬く、温度による流動も少ない製品です。その他、アスファルトに樹脂を添加したアスファルトを使用する場合もあります。

対策工法の適用に関しては、道路管理者(国、県市町村等)の判断によります。

ポリシール参考情報:http://www.nippo-c.co.jp/tech_info/general/SG02029_g.html
http://www.nippo-c.co.jp/news_pdf/vol_89/89_01hokkaido.html

Q 「誘導合図なしでバックしない」への取り組みとは、どのようなものなのでしょうか？

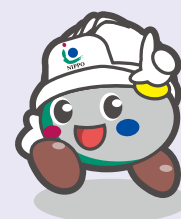
A 重機や車両を誘導合図なしでバックさせることは非常に危険で、人命にかかわると認識しています。そこで、誰でもが緊急時に確実な誘導ができるように誘導教育訓練を定期的実施し、「安全作業4つの誓い」を朝礼時に従事者全員で唱和しています。また、資機材運搬車両が誘導合図なしでバックしないように看板等を設置し運転手に注意喚起しています。



Q 地域にNIPPOのことをもっと知ってもらえるような取り組みはしていますか?「何する会社?」とよく聞かれます。

A 当社は日本全国の事業所で、地域に密着した事業活動を行っており、当社の事業や取り組みをもっと良く知ってもらうために、自社ホームページ(<http://www.nippo-c.co.jp/index.html>)で様々な情報発信をしています。

また、将来を担う子ども向けに「道づくりのひみつ」を作成し、全国の小学校や図書館へ寄贈しているほか、地域住民の方々に施工中の現場に招いて現場見学会を開催する等、当社の事業活動をPRするための取り組みを行っています。



私のCSR特集

2011年度レポートから始めた「私のCSR」コーナーに関して、「身近に感じられる」「興味を持って読めるので、もっと取り上げてほしい」とのアンケート回答を数多くいただきました。

そこで2013年度レポートでは、NIPPO従業員が日常どのようなCSRの取り組みを行っているのかについて、より詳しく紹介いたします。



北海道支店
河田 文彦

私の勤務する北海道では、毎年、冬の厳しい寒さで学校のグラウンドが凍結し、春にはこれが溶けてぬかるみや凸凹になります。ぬかるみや凸凹は、グラウンドで遊ぶ子どもたちのけがの原因にもなり、地域の悩みの種でした。

そこで当社では、道内各地の学校に申し出て、重機を使った整地を行っています。この整地作業には、当社の道路不陸整正技術が活かされており、きれいに整地されたグラウンドで思い切り遊べると学校関係者や子どもたちに喜ばれています。



近年では法律等の「ルール」に加え、営業活動や市場活動の公正さ、情報公開、職場環境、公務員や政治家との関係など、多くの面で高い倫理観が求められるようになってきています。

当支店では社員一人ひとりがこの高い倫理観を持つことができるよう、毎月開催している事業所会議において、「優越的地位の濫用について」や「不正な取引制限(カルテル)について」といった本社総務部から提供されたテーマに沿って勉強会を実施し、公平・公正に業務を遂行するように努めています。



北信越支店
植田 雅之



中国試験所
杉山 加代

私の職場では、「可燃」「不燃」だけでなく新聞紙やダンボール、アルミ缶など細かい種類に分けたゴミ箱を配置して分別を徹底し、ゴミの排出量削減に努めています。その上で、資源として再利用できるアルミ缶等は月に1回、回収を呼びかけている町内会に提供し、町内会行事の運営費にあててもらっています。毎月2〜3キロほどのアルミ缶を提供しています。小さな事でも従業員一人ひとりが意識して取り組み、おのずから環境への配慮、資源の有効活用につながると考えています。



現場では何かと目先の利益を優先しがちですが、高品質なものをつくること、不具合をなくすことが会社の信頼と長期的な利益につながることを現場にも徹底させる必要があります。そのため、施工前の予防処置、施工中の品質点検実施を通じて不具合防止に努めるとともに、定期的に支店内で不具合事例再発防止勉強会を実施しています。勉強会では「顧客苦情」「不具合事例」などをテーマに従業員同士で講師を分担し、学びあっています。このような取り組みを通じて品質に対する意識を高め、クレームゼロを目指しています。

◀施工中の品質点検作業の様子



東北支店
山田 和弘



四国支店
尾松 靖子

私は長年にわたり綾川町辰巳自治会の会員として、ゴミ清掃活動のクリーン作戦に町民の仲間とともに参加しています。今年で約20年を迎え、地域近隣の美化が維持できていることに喜びを感じています。また、この様に地域社会の一員として貢献できる当たり前のことが現在は失われつつありますが、とても大切なことであると確信しています。そのほかに沿道の草刈り、側溝の清掃作業ならびに讃岐名物「鯖の押し寿司」づくりを通して、地域のコミュニケーション活動の一翼も担っています。このような活動を私自身は一度も社会貢献と思ったことがなく、生き甲斐として感じています。



第三者意見

横浜市立大学 学術院国際総合科学群 教授
国際都市学系長

上村 雄彦 氏



今やCSR(企業の社会的責任)は、時代と社会の要請である。CSRは、経済、環境、社会の3本柱からなり、従業員、地域住民、取引先、NGOなど幅広い利害関係者の幅広い社会的ニーズをつかみ、企業がこれらのニーズに応えることで、社会から信頼を得ながら、持続可能な社会の一員として貢献することが求められている。とりわけ、利益の一部を寄付をするというやり方ではなく、本業を通じて社会に貢献する「ほんもの」のCSRが、企業の本気度を測る目安となる。

アスファルト舗装工事を中心とする舗装・土木工事およびアスファルト舗装の材料であるアスファルト合材の製造・販売を中核事業とする株式会社NIPPOがそれにどのように応えているのか、興味深くレポートを読んだ。

まず目についたのは、環境への取り組みである。NIPPOは、2012年度に2009年度比でCO₂排出量を3.6%削減している。この点との関連では、CO₂排出量を削減する低炭素舗装は注目に値する。また、産業廃棄物の最終処分率も0.46%とほぼ「ゼロ・エミッション」に近い。これは、とりわけアスファルト廃材の再利用によるところが大きい。

また、都市のヒートアイランド現象を抑制する「遮熱性舗装」、透水機能や交通騒音低減機能を持つパーピラスと呼ばれる舗装により、通過車両による水跳ねを抑制し、走行騒音を

低減する技術は、まさに本業を通じたCSRである。同じく、放射性物質に汚染されたアスファルト舗装道路の表面を、薄く削り取ることで除染する「薄層切削路面除染システム」の開発も、NIPPOならではの社会的責任の遂行であろう。その他にも、従業員の安全への配慮の徹底、「災害に強いまちづくり」を通じた被災地復興支援など、貴重な取り組みをされている点は評価したい。

他方、環境に関して、12ページの表にあるとおり、基準年が異なっているのは問題である(2009年度比と2011年度比が混在)。また、2013年のCO₂排出量削減目標が2012年度の実績よりも低いものがある(たとえば、2012年度は2009年度比で5.3%削減したのに対し、2013年度の目標は同年比4%になっているなど)。混合廃棄物排出量削減は難しいところではあるが、いずれ何らかの具体的な目標を復活させるべきであろう。

また、CSRを考える際、NIPPOの事業だけでなく、サプライチェーンマネジメントまで踏み込む必要があるが、今回のレポートでは特に記述がなかった。

このように、改善すべき点があるものの、総じてNIPPOは真面目にCSRに取り組んでいることがうかがわれ、今後の活動に期待したい。

ご意見をいただいて

環境安全・品質保証部長
北村 一博



上村先生には、貴重なご意見をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

当社では「確かなものづくりを通じた豊かな社会の実現」を企業理念に、道づくり・まちづくりを通じて持続可能な社会の発展に貢献することを使命と考えております。その意味

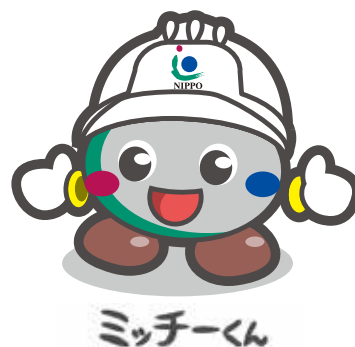
で、遮熱性舗装やパーピラスなどの環境配慮技術については、今後も研究・開発に力を入れ、本業を通じた社会への貢献を一層推進していく考えです。

改善点については、いただいたご指摘を参考とさせていただき、取り組みに努めたいと思います。工事内容に排出量が依存する混合廃棄物のように、当社だけでは数値目標の設定が難しい事項もありますが、社会に資する企業となるべく、これからも幅広い皆さまからのご意見を踏まえて、一層充実したCSR活動に取り組んでまいります。

NIPPO マスコットキャラクター 「ミッチーくん」誕生!

NIPPOのマスコットキャラクター「ミッチーくん」は、大勢の方々に、道路や舗装をより身近に感じ、興味を高めていただけるように、「道づくり」のPR活動に励んでいます。

NIPPOキッズサイトでの案内役や、配布物での製品紹介、イベントでの着ぐるみ操演など、多方面で活躍しており、今後も活動の場をより一層増やしていく予定です。



ミッチーくん プロフィール

NIPPO従業員の道づくりへの熱い思いが、道の材料である熱々のアスファルト合材に魂を宿して誕生した。

生まれてすぐ、道づくりに様々な工夫や知恵が隠れていることを知り、感動のあまり頬がNIPPOのロゴマーク色に染まる。

その時の、驚きや感動を大勢の人に伝えようと、がんばって活動中。ミッチーくんの夢は、道づくりの「道」を究めること。

生まれたところ：東京都中央区京橋

誕生日：2月2日

性別：男の子（だと本人は思ってる）

性格：真面目で一途ながんばり屋さん

道づくりのこととなると、熱くなり過ぎてしまうところがある

お仕事：道づくりにまつわる知恵や発見、驚きを大勢の人に伝えること

趣味：自転車競技のロードレース観戦（Team NIPPOの大ファン）

好物：舟盛り（江戸前の鮮魚が大好き）

装：NIPPO従業員にもらったヘルメットと軍手は宝物

癖：楽しみっちょー！がんばろーど！



▲自転車ロードレースチーム「Team NIPPO」応援

◀NIPPOキッズサイト

お問い合わせ先

株式会社NIPPO 環境安全・品質保証部
〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11
TEL: 03-3563-6734 FAX: 03-3535-0040
URL: <http://www.nippo-c.co.jp/>
2013年9月発行(次回発行予定2014年9月)



この報告書は「FSC®認証紙」を利用し、印刷には環境にやさしい「植物油インキ」と「水なし印刷」を採用しています。